

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3372200620		
法人名	医療法人 知誠会		
事業所名	グループホーム アルテピア		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町江尻705-1		
自己評価作成日	平成28年2月9日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「ゆっくり」、「いっしょに」、「楽しく」をモットーにスタッフ・入居者の方が共に生活が送れる空間を目指しています。重度になられてもご家族の方が安心できる受け入れを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvoVoCd=3372200620-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvoVoCd=3372200620-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成28年3月30日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所周辺には緑が多く、移りゆく季節を感じながら生活を送っている。四つのケア方針に基づき、「ゆっくり」「いっしょに」「楽しく」の理念を入居者と職員、外来者共々共有して実践に繋げている。理念の大切さは研修において「その意義となぜ必要か」を個々の職員が考え、事業所全体の調和と方向付けが得られるよう努めている。開所10年以上となり、高齢化、重度化した入居者を抱えて、日常の排泄の自立支援、入浴を楽しむ、日常的な外出などの業務に工夫が求められ、負担が大きくなっている。自立した入居者は一人一人の思いを尊重され、美容室へ毛染めに出掛けたり、居室で観葉植物を育てたり等、その人らしく生活している。防災に関しては冠水などの水害の経験を経験を踏まえ、その対策を協議する予定である。「皆元気に100歳を向かえられる様、頑張っていきたい」と、管理者の抱負の言葉に期待を寄せる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内やホールの目に届きやすいところに掲示して朝、声を出して確かめ、実践につなげている。	理念を職員、入居者、家族、訪問者に明示し、生活・対応全般に繋がる様、実践に努めている。内部研修にて理念がなぜ必要なのか職員個々に考慮し、ホーム内の調和と方向付けを目指して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ワークセンターが週一回アルミ缶やペットボトルの回収に来られる。 花を届けて下さったりしている。	ワークセンターから花の植え付けをもらい、事業所からセンターの秋祭りに出掛け交流している。体操や紙芝居等のボランティアの受け入れをしている。近隣から季節の花の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を借りて事業所の利用状況等をお話したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて話し合われた意見を職員間で再度話し合い、サービスの向上に向けて活かしている。	地域包括、民生委員、家族代表が参加し、2ヶ月毎に会議を開催している。ホームの近況報告、活動報告、外部評価報告をし、季節の感染症に関する対策、派遣、災害に関する話し合いをして運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を活用し、市町村職員等と協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括の運営推進会議出席を得て、事業所の事故報告や状況報告をすると共に、行政からは地域の各種教室の案内、近隣の状況、空き家情報等を入手し、伝達、感染症に関する警告や対策の指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束なくケアに取り組んでいる。	内部研修にて、身体拘束に関する正しい理解を得て、拘束をしないケアに繋げている。入居者の不穏時には言葉を変えたり気分転換を図りながら、本人が落ち着きを取り戻せる様、工夫し取り組んでいる。玄関は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用の方が入居されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用いて説明、相談、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	状況に応じて家族の方と話し合ったり、1年に1度家族交流会を開催している。	入居契約時に家族に重要事項を説明して意見を聴いている。意見箱を設置し、面会時や運営推進会議に意見を聴く機会を設けている。年一度家族交流会を開催し、要望を聴ける機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日申し送りを行い、月に一回職場会議を開催して情報の共有や意見の反映を行っている。	月1回の職場会議にて意見を聴き運営に反映させている。研修は職員の専門性を高め、意見・提案に繋がる機会となっている。年2回の人事考課は、職員の就業状態を知り、処遇が考慮される良い機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催される研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修会等を通して交流に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接等で生活状況を把握するように努め、ご本人の求めていることや不安を理解しようと努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方の要望を傾聴し、どのような対応が出来るか事前に話し合いをして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向を踏まえ、必要な支援につながる様、すり合わせ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を送り、一緒に楽しく過ごしていただけるような場面作り等に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をその都度報告相談することや、ご家族の潤滑油になるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達が面会に来られたりする。 近隣を散歩されたりしている。	家族に本人の状況やプランを説明する。家族交流会を計画する等、面会の機会を作り関係が途切れない様努めている。住み慣れた事業所周りを散歩して穏やかな生活の場の獲得や、友人に年賀状返信を勧め支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報を共有して支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用者が契約終了しても連絡を取り合ったりして相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声掛けしたり、傾聴したりして、ご本人の意向の把握に努めている。	本人に思いや希望を聴いたり、日々の関わりの中で声掛けによる反応から意向の把握に繋げている。家族の情報や職員からの意見を勘案して意向を捉えている。重度化に伴い意向の把握に工夫が求められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、ご家族の方やご本人に在宅時の様子をお聞きしたりして、人生の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、お一人お一人の生活リズムや状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で、ケアのあり方等相談や検討したり、ご本人やご家族の意向を傾聴したりして、現状に即した介護計画作成に努めている。	月1回、モニタリングシートを用いて状態・能力チェックをし、様子観察をしている。担当制を導入し、変化を入念に報告してもらい、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを活用し、食事量、水分量、排泄等日々の状態を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、その都度、より良い支援が出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際、地域包括支援センターの職員の方が地域の情報を提供して下さい。民生委員の方が身近な情報を教えて下さったりされる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が在宅受診されていた医院を継続して受けられるよう支援している。月1回訪問診療を受けている。	協力医がかかりつけ医となり、月1回、訪問診療を受けているが必要時は往診してもらっている。歯科医の往診にて全介助状態の入居者対象に口腔ケアを受けている。隣接する施設看護師長と協働にて健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に、日々の健康管理や医療面での相談、助言、受診等受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には見舞いを行い、馴染みの関係が途切れないよう心掛け、退院支援に結び付けていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を図り、安心して最期を迎えられるよう取り組んでいる。	入居時に終末期の説明をしているが、その都度意向を確認している。終末期は本人や家族の意向に沿い、医師の指示の下、看取りが出来る様支援している。看取りに関する講習を受けている。現在、重度化した入居者数名のケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてマニュアルを整備し、定期的に勉強会を催し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。土地柄、冠水がみられ水害等を含め、老健と協力体制を築いている。	年2回、昼夜火災想定避難訓練を避難計画に基づき実施している。災害時、隣接する老健と協力体制を築き、階段の上が避難場所となっている。冠水の経験があり水害対策が課題となっている。	冠水による水害を経験され、その対応が必要となっている。冠水時の入居者避難に関する具体的な手順等、話し合われる事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、ご本人の気持ちを大切にケアを心がけている。	排泄介助時、衝立を使用する等、プライバシー確保に努めている。無理強いすることなく本人の思いに沿った対応を心掛けている。丁寧な声掛けをして「ゆっくり」の理念に沿った対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方の表情や反応をとらえ、自己決定出来るように声掛け、傾聴等に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の生活の流れを配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさが保てるように努めている。(老健美容室への送迎等)。ボランティアでの散髪。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に行く際、希望される物を聞いたりしている。季節の食材を取り入れたり、利用者の方と職員が同じテーブルで楽しく食事出来るようにしている。	主食や汁物、副菜を調理している。入居者と同じテーブルで同じ物を食べ、「一緒に食事が楽しめる」様支援している。歳時記に合ったメニューが提供されたり、時にはスイートポテトやゼリー等、おやつ作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の日々の体調を考慮し、一日の摂取量の把握に努めている。必要に応じて栄養調整食品を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方には、声掛け見守り確認を行い、出来ない方には口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能に応じてトイレ誘導、声掛けなどを行い、排泄できるよう支援を行っている。	トイレでの排泄を支援し、定時・随時の声掛け誘導をしたり、「便所」と大きく表示して自立を促している。オリゴ糖を使用し、水分補給、運動、食事等の工夫にて体調管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や適度な運動、飲食物の工夫に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日浴の声掛けを行い、日々入浴の支援に努めている。(入浴剤の工夫)	二日毎の入浴日となっている。本人の意思を確認して誘導している。重度化に伴い、入浴用のストレッチャーを使用し、二人介助にてバスタオルで工夫する等、浴槽でゆっくり温まれる様支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活習慣を考慮して、ペースにより離床臥床を促したり、午睡されたりしている。夜はゆっくり眠くなるまでホールで過ごされたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は二人でチェックして、本人に再度お名前をお呼びして確認するなど充分な注意を行っている。処方の変更になった時は、申し送り、確認に努めている。セットする際は名前を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の片付けや洗濯物を干したりたたんだり、それぞれに出来ることをスタッフと一緒に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方と外出され食事に行かれたりされる。外出され地域の行事に参加されたりしている。	気分転換・外気浴を兼ねて施設周辺を散歩に出掛けている。重度化・気温変化に順応できないなど、外出が難しい方が居て、外出全員参加は困難な状態。ワークセンターとの交流があり、秋祭りに出掛けている。施設周辺に植えられた桜の木の開花は散歩・外出の機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をいくらか所持され、身の回りの物や欲しいものを買ったりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持されて電話連絡されたり手紙を書かれたりされている。 毎日、日記を書かれたりされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と一緒に花を活けたり、カレンダーを作ったり、季節の物を飾ったりレクリエーションで作った物を飾ったりされて、日々の生活の中での変化に努めている。	リビングは生活の場となっていて、ひな人形や米桜、モクレンの花等を飾り、季節を感じながら生活を送ってもらっている。玄関先にはパンジーなどの花が咲き、散歩時の癒しとなっている。床は転倒時、骨折防止としてクッション材を使用して、安全に配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に畳コーナーがあり、窓側には景色を眺めながら椅子に座ってくつろげる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なじみの物を置き、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。 出来ることを手伝っていただいている。	重度化に伴い、居室で過ごされている入居者には声掛けをして、活気に繋がる様支援している。大切にしている仏壇や、家族の写真、テレビ、観葉植物、筆筒を配置して自分の部屋作りをしている。	概ね日中、居室で過ごされる入居者の為、居心地良く過ごせる様、CDで音楽を掛けたり、季節の花や物品を飾ったり等、視聴覚に訴える工夫を期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家族の方と外出されたり洗濯物を干しに一緒に出たり、施設の周辺を散歩に行かれたりしている。		